

令和 6 年度

市政モニターアンケート調査結果
【 少子化対策の取組みについて 】



長 崎 市
長崎創生推進室

1. 調査の目的

長崎市では、喫緊の課題である人口減少対策として、3つの重点プロジェクトの一つに「少子化対策」を掲げ、取組みを進めています。

今後、より戦略的かつ効果的な事業展開をしていくため、少子化対策アクションプランに位置付け実施している事業の認知度等を把握・検証する調査を行いました。

2. 調査の概要

調査期間：令和7年2月7日 ～ 令和7年2月21日

送付数：269人

回答率：82.5%（222人）

（郵送回答 136人 インターネット回答 86人）

3. 調査結果

【少子化対策の取組みの認知度等について】

少子化対策の取組みの認知度について、独身・結婚期、子育て期、教育期の3つのライフステージに分けて比較すると、結婚支援の取組みは64.9%と半数以上の方に知られていますが、子育て期や教育期の取組みはあまり知られていないことがわかりました。

また、少子化対策として効果的だと思う取組みは、「保育所に通う子どもの保育料の無償化（第二子以降）」や「小中学校の給食費・保育所の副食費の物価高騰分を長崎市が負担」といった経済的支援を回答した方が多いですが、効果的だと思うと回答した方が2番目に多い「小中学校の給食費・保育所の副食費の物価高騰分を長崎市が負担」の認知度は回答数の18.0%となっており、効果の高い取組みと考えられている一方で、認知度はほかの取組みよりも低いということがわかりました。

【少子化対策の情報発信について】

長崎市の少子化対策の取組みを、トレーディングカードを用いて発信する「ながさき未来サポーターズ」について、88.8%の人が「知らなかった」と回答しており、周知が十分にできていないことがわかりました。

少子化対策に対するご意見の中にも、取組みのPRを強化すべきという意見がみられ、情報発信を強化・継続して行っていく必要があることがわかりました。

4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100 パーセントに合致しない場合があります。

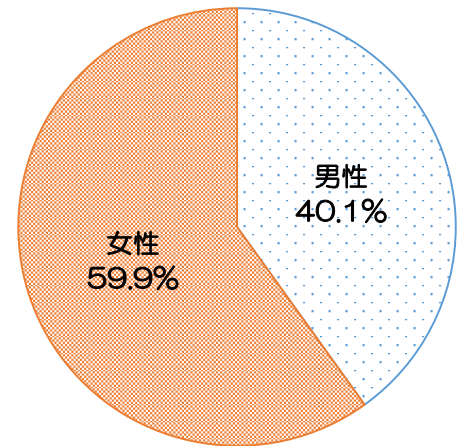
また、複数回答可とした設問においては、合計が 100 パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

問1 あなたの性別をお答えください。

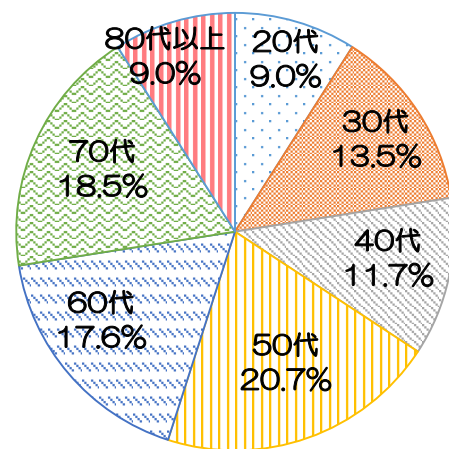
選択肢	回答者数	割合
男性	87 人	40.1%
女性	130 人	59.9%
合計	217 人	100.0%

(無回答 5 人)



問2 あなたの年齢を選択してください。

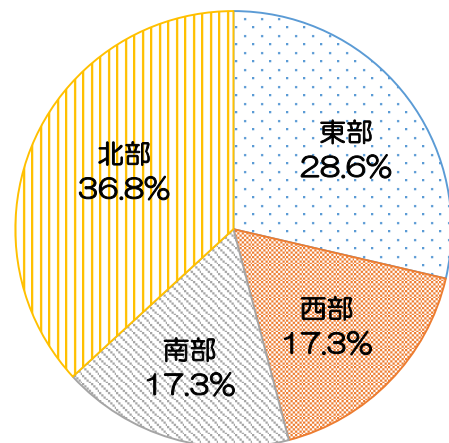
選択肢	回答者数	割合
20 代	20 人	9.0%
30 代	30 人	13.5%
40 代	26 人	11.7%
50 代	46 人	20.7%
60 代	39 人	17.6%
70 代	41 人	18.5%
80 代以上	20 人	9.0%
合計	222 人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

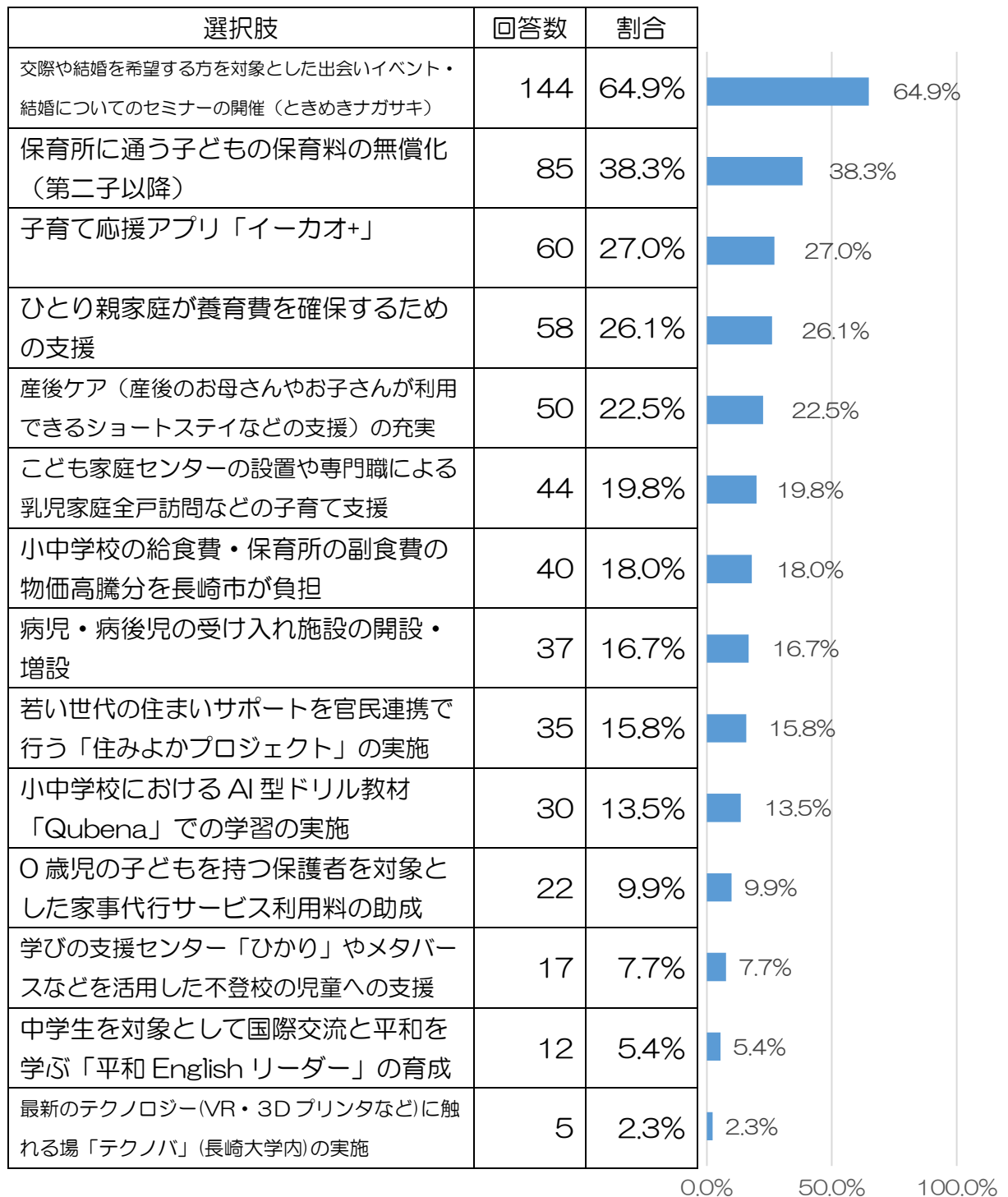
選択肢	回答者数	割合
東部	63 人	28.6%
西部	38 人	17.3%
南部	38 人	17.3%
北部	81 人	33.8%
合計	220 人	100.0%

(無回答 2 人)



※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

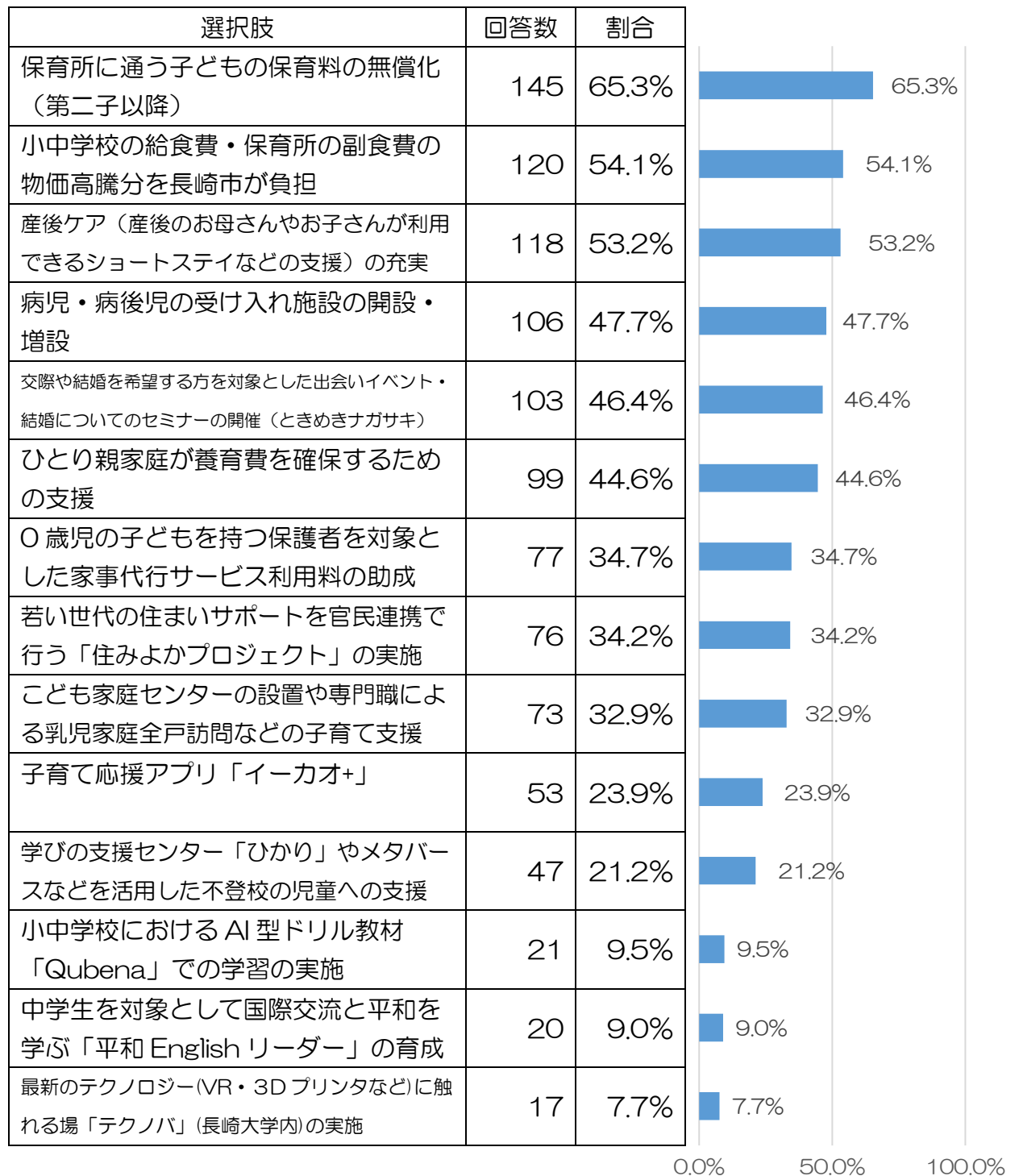
問4 長崎市役所の少子化対策の取組みについて、知っているものを教えてください。（複数回答可）



少子化対策の取組みの認知度について、「交際や結婚を希望する方を対象とした出会いイベント・結婚についてのセミナーの開催（ときめきナガサキ）」が64.9%と最も多くの方に知られており、次に「保育所に通う子どもの保育料の無償化（第二子以降）」、「子育て応援アプリイーカオ+」の認知度が高いことがわかりました。

独身・結婚期、子育て期、教育期の3つのライフステージに分けて比較すると、「小中学校におけるAI型ドリル教材「Qubena」での学習の実施」や「中学生を対象として国際交流と平和を学ぶ「平和 English リーダー」の育成」などの教育期の取組みがあまり知られていないことがわかりました。

問5 長崎市役所の少子化対策の取組みについて、効果的だと思うものを選んでください。（複数回答可）



少子化対策として効果的だと思う取組みは、「保育所に通う子どもの保育料の無償化（第二子以降）」や「小中学校の給食費・保育所の副食費の物価高騰分を長崎市が負担」の経済的支援を回答した方が多く、次に「産後ケア（産後のお母さんやお子さんが利用できるショートステイなどの支援）の充実」「病児・病後児の受け入れ施設の開設・増設」などの精神的支援、そして「交際や結婚を希望する方を対象とした出会いイベント・結婚についてのセミナーの開催（ときめきナガサキ）」の順となっています。

また、効果的だと思うと回答した方が2番目に多い「小中学校の給食費・保育所の副食費の物価高騰分を長崎市が負担」の認知度は回答数の18.0%（問4より）となっており、効果の高い取組みと考えられているが、認知度はほかの取組みよりも低いということがわかりました。

問6 少子化対策として長崎市にどのようなことを期待しますか。（記述式）

〈主な回答〉

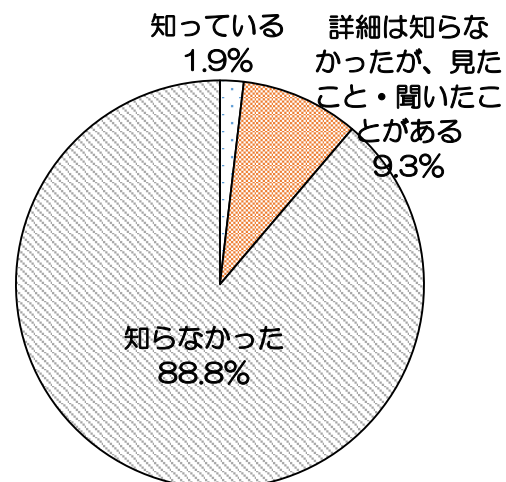
- ・企業の誘致などによる雇用の確保、賃金アップ
- ・保育料、給食費、教育費、医療費などの無償化
- ・結婚支援の強化
- ・出産後や子育て中も働きやすい職場環境の整備
- ・保育所の充実や病児の受け入れ施設の増設
- ・情報発信による取組みの周知
- ・不妊治療や出産時の費用の助成
- ・家賃補助や空き家活用などの住宅政策

主な回答から、求められている支援としては「経済的支援」や「仕事と子育ての両立支援」「結婚支援」「情報発信」の4つに分類でき、特に経済的支援と仕事と子育ての両立支援が強く求められていることがわかりました。

問7 長崎市の少子化対策の取組みを、トレーディングカードを用いて発信する
「ながさき未来サポーターズ」を知っていますか。(当てはまるもの1つ回答)

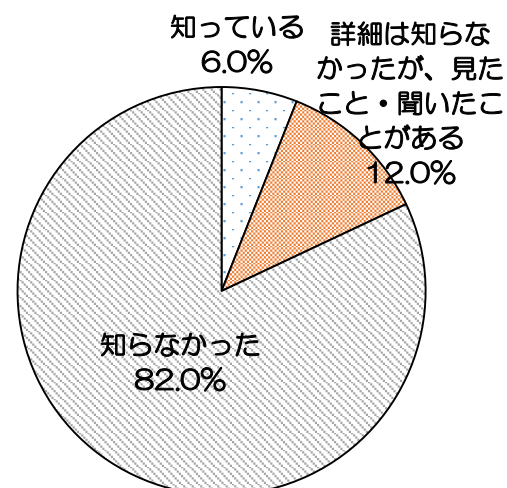
〈全体〉

選択肢	回答数	割合
知っている	4	1.9%
詳細は知らなかったが、見たこと・聞いたことがある	20	9.3%
知らなかった	190	88.8%
合計	214	100%



〈20代・30代のみ〉

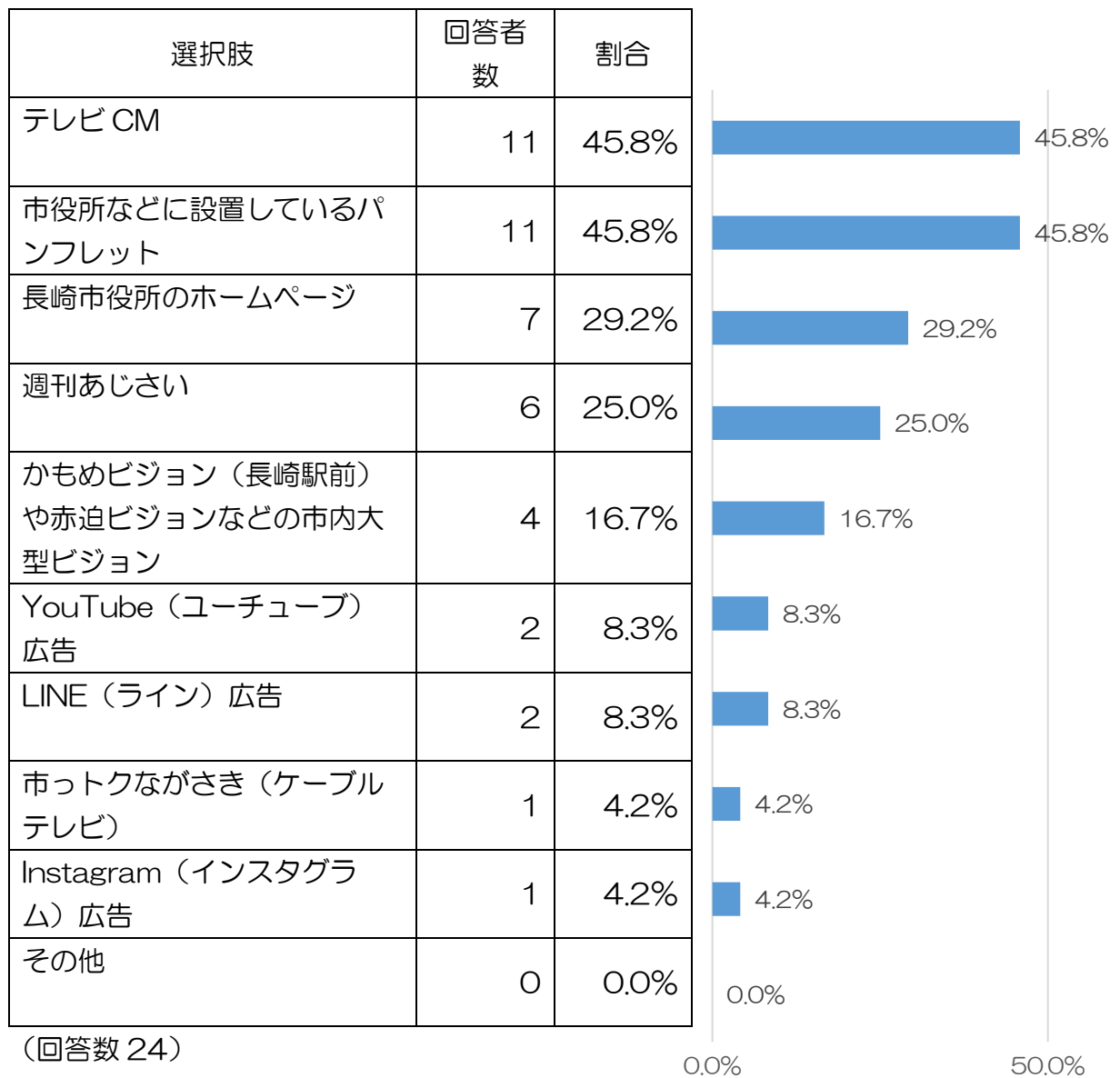
選択肢	回答数	割合
知っている	3	6.0%
詳細は知らなかったが、見たこと・聞いたことがある	6	12.0%
知らなかった	41	82.0%
合計	50	100%



全体の 88.8%の人が「知らなかった」と回答しており、長崎市の少子化対策の取組みを、トレーディングカードを用いて発信する「ながさき未来サポーターズ」について十分に知られていないことがわかりました。

一方で、情報発信の主なターゲットである 20 代・30 代のみを抽出したところ、「知っている」「詳細は知らなかったが、見たこと・聞いたことがある」と回答した人は 18.0%と、全体の 11.2%から上昇しましたが、82.0%は「知らなかった」と回答しており、周知が不足していることがわかりました。

問8 問7で「知っている」「詳細は知らないが、見たこと・聞いたことがある」と回答したかたに質問です。「ながさき未来サポーターズ」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)



問9 その他、少子化対策に対するご意見があればご記入ください。（記述式）

〈主な回答〉

- ・ 出会いの場を多く。
- ・ 未婚、離婚の減少対策、子育て支援の充実を図って頂きたい。
- ・ 若い人達が定着できる産業の活性化。
- ・ 広報で周知を徹底する。
- ・ 市民に伝わりやすい施策。
- ・ 長崎市の活動を広報などで周知することが必要。
- ・ 高齢者と若者とのコミュニケーションの場を多くとれるようにしてほしい。
- ・ 現在、取り組んでいる対策をもっと広めて必要な人がもっと利用できるような働きかける。
- ・ 色々な価値観が生まれてきているので、結婚、出産へ興味のない人に働きかけるのは、無理があるように思う。実際結婚している人が出産や第2子、第3子を産もうとする時のハードルを下げるのが良いのでは。
- ・ 子ども食堂を増やす。
- ・ 収入が少ないことと社会保険料や税が高いため、個人生活を好む方が多いと思います。全国的に税の負担の軽減を呼びかけていただきたいです。
- ・ 地域でのコミュニケーション、あいさつ運動（身近な所から）。
- ・ 親が親になれてないような気がします。今の親は共働きで忙しそうです。親に対して支援が必要だと思います。
- ・ 子供を産む、産まないよりもそもそも周りを見渡しても結婚を望まない若者が増えている。恋愛も面倒とか結婚願望がある人たちを集め、気軽に参加できるようなお見合い大作戦など頻繁に催したらどうか。
- ・ 小学校、中学校での完全な給食費の無料化をしていただけたら助かると思います。
- ・ 子育てを親が育てるから地域で育てるような昔ながらのことが、今はとても難しくなりました。大家族制（3世代同居）がなくなり、ご近所の人とも挨拶程度、また今は怪しい人の存在もあり、増々母親一人で育てているという状況かもしれません。そういう人達のネットワークや居場所があれば不安もなくなるのかなと思います。
- ・ 保育所の充実。住宅地の近くの場所を確保したい。
- ・ 男性の育休を特別としないで、通常に取れるようになれば、女性も安心して子供を産めると思う。
- ・ それぞれ考えがあるので子供を産みなさいと上から目線だと、子供がほしくても出来ない人にはつらいと思う。子供を育てるのは大変だ大変だお金がかかるという事をあまり大声を上げないといいなと思っています。子育ては楽しいです。それで半人前が少し成長したかと思っています。

- ・高校まで学費無料化にしてもらえたらいいと思う。
- ・まずは、結婚しないとはじまらないので、結婚祝い金や保育無償化
- ・企業に、育児制度等、整ってない。松浦市役所や消防の人の事、育児上層部の意識が地方にいく程、意識低く、若い人が育短など取りにくい。
- ・スポーツも結構ですけど、音楽や日本古来の芸能、能やその他、招聘が全くない。佐世保に負けてると思う。文化的な面で全く魅力がない。これからの時代、若者の関心の中心になってくると思う。
- ・子育て支援も大変ですが、出生率を上げる事を目標にして欲しいです。妊活にももっと支援が必要だと思います。
- ・夏休み等、長期休みの時、公園でボール遊び等があまり出来ないのが残念。市内でも少し広めの公園が欲しいと思う。
- ・対策の評価、フィードバック、再評価をして問題点を早く見つけることを早くできること。
- ・「ながさき未来サポーターズ」のことを知らなかったので、ネットで調べてみたら、とても良い取り組みだなと思いました。長崎ローカル CM を流して、より多くの人に知ってもらう事が大切だと思いました。
- ・子育てする為には安定した給料 経済の発展
- ・子育て支援の強化
- ・交通インフラの充実。各々の保育園、幼稚園の独自のカラーの PR、公園の充実
- ・結婚する事でのメリットを... いや楽しみを.. う〜ん難しい。
- ・子どもを育てるのは親、両親が揃って子育てをしっかりとするのが基本であり、周りのもの、社会のものそれぞれが見守り、支援して行くことにみんな協力し、取り組める平和な世であることを望みます。
- ・使い易く、現実的に助かる対策をして下さい。
- ・まずは若者が住みたくなるような施設や政策が必要だと思う。若者が流出していることが問題であって、その次に少子化対策ではないか。
- ・子供自身が活発に動けるように支援することが、原動力にならないものでしょうか。外から固める事ばかり考えてしまっている様に感じられる。子供が発信できるエネルギーが出番を待って待機している様にイメージしてしまいます。子供の意見を集めて下さい。大人（役所、係ではなく、子供だった人）が目線を下げて子供と話をしてみして下さい。子供のことは、子供に聴け！！
- ・私が勉強不足のせいもあるだろうが、市に限らず（県）キャンペーン的なイベントの連動性がなく、散漫なイメージでインパクトがない気がする。イメージカラー、イメージロゴ、キャッチフレーズを「長崎」として統一するなりして、全国へのアピール力を高めて欲しいと思う。

- ・ 病中、病後の子供を安心して預けられる場所を増やして欲しい。
- ・ 共働き世帯への支援
- ・ 保育園と学童を充実させる。母親となった時に急な用件にも対応出来るようにする。
- ・ 企業の誘致や移住者を応援する取り組みを行う。
- ・ 世界的に子供が増えている国がどれだけあるかわかりませんが、北欧の国々が浮かびますが、国の考え方や有り様がまた違います。参考に出来るとは思いますが、有るとすれば「長崎市」に置き換えて〇〇年計画で作らないと時間ばかりが経ち問題解決にはならないように思います。「夢を持ち生きていかなければなりません」常にこんな事を考えています。こんな長崎にしたいです等々発信して欲しいと思います。
- ・ 中小企業で働く女性が多いと思うので、子育て中の代替要員の確保、復帰後の働き方が大企業のように時短などが取れない状況の改善、女性の負担の仕事、子育ての軽減。
- ・ 貧困家庭への援助
- ・ 長崎の工業地援助（特に三菱造船所関係）で人口の増加を計るべき。
- ・ 国の政策がダメなので難しいですね。すぐには良いアイデアが浮かびません。
- ・ 世界中の先進国殆どが抱えている問題なので、今長崎市で生活している住民の満足度を上げる方を優先させてほしい。
- ・ 若者の雇用を増やす
- ・ 産休や育休がとれる人ばかりではない。ぎりぎりまで働いても職場復帰が難しい。未来サポーターズ等あるのは助かると思う。
- ・ 公園やプレイルームなどの増設も考えてほしい。
- ・ 長崎市でも問7で少子化対策で問8のPR（1～9）を進めてください。
- ・ 少子化対策は大きな問題。外国の人が日本を変えてしまうのではないかと心配。土地を買ったりしている。人が昔みたいに居ればこんな事はない。早く人が多くなるため、子育て大切。若い人達が子供を作らないのは職業を持っている人が子育ての為、休職し元に職場に戻れても空白があり、なじめなくなる。
- ・ 高校生の授業料、全世帯無料に。わずかなオーバーで全額負担はおかしい。
- ・ 家賃が他府県と比較すると高いです。
- ・ 公務員や一部上場などの会社なら良いですが、派遣だと大変です。
- ・ 新婚 10 年位まで、補助があれば助かるのではと思います。
- ・ 子育て中、子育て後の就労支援を手厚くしてほしい。
- ・ もう遅いと思いますので実質的支援で無いと手遅れだと思います。
- ・ 産休・育児休暇の取りやすい環境整備の推進

- ・周知がまだまだ足りないかなあとと思います。
- ・保育料の無償化を 1 人目から取り組んでもらえると、第一子を授かろうとするハードルが下がると思う。
- ・育児がしやすい環境を整えてほしい
- ・若者が長崎に残りたいと思えるような大胆な政策、取り組みを期待します。
- ・アピールが足りないような気がします。そして、アピールするにはアピール出来る対策が必要です。アピールが足りないのは少子化対策として、魅力がないと長崎市も分かっているのでは？と思ってしまいます。
- ・キッズニア等の子供が遊べる施設の確保
- ・高校生迄の授業料を全て無料にする事
- ・保育園、幼稚園の保育料無料、給食費無料
- ・問 5-9 の病児の受け入れ施設をさらに進めて、熱発等で保育園に通えない際の受け入れ先を提供できたら、子育て世帯および勤務先ともに喜ばれる制度になると思われます。
- ・婚活のイベントを開催
- ・色んな対策があるんだと初めて知りました。市の活動をもっと若い人たちに見えるように PR すべきだと思う
- ・長崎市が離婚率がどうか知りませんがそういうところや女性の県外流出にも問題があるかもなと思います。
- ・共働きが多くなっているので不妊治療もなかなか進めにくい環境にいる方が多いです。仕事を辞めざるを得なかったり、金銭的に諦めることになったりするので、まずは不妊治療費用の補助の拡大を望みます。
- ・また、間があいて 2 人目を出産した場合だと保育園料は無償化にならないケースがあるので、兄妹との年齢差関係なく支援を受けられるようになると、第三子の子産にも金銭的にも余裕が生まれるのでご検討いただけますと幸いです。
- ・直接関係ない世代に向けた PR。行政が少子化対策をしないといけない理由や、しなかった場合どのような影響を被ることになるかを、きちんと伝える。やっていることを誇るのではなく、やらなければいけないからやっているのを協力してほしいとのスタンスで。
- ・どんな施策をしているのか周知する必要があると思います。それがわからないので何を欲しいかもわかりません
- ・まず国の政策がピント外れのものが多いと思う。特に子ども扶養 3 人の世帯の大学無償化などは最悪である。そんな予算があるなら保育所を無料にしたり、小中学校の給食費無償化を進めるべきだと思う。なお、上記の大学無償化政策は地方の視点からみても、都会の私立大学への無用な流出の要因になるだけだと考える。

- ・結婚して、子供を育てることに、マイナスイメージばかり感じているように感じる。苦労はあっても、子供や孫の成長はかけがえのないものなんだ、という意見や風潮が少なすぎると思う。”
- ・行政と地場民間企業との協働で、更に事業改革が必要だと思う。何故、地場企業の平均賃金が、他県と比べて低いのか。人が集まれば、賃金が高くなるのか？一部の高齢者の方々には、お金が余っている方々もいると聞きます。この差は、何なのか？
- ・住民税非課税世帯ばかりに支援が充実しているようで、不公平に感じます。税金を頑張って納めている上に、物価高で苦しい思いをしつつも生活水準を下げ頑張っている家庭が多いということを知っていて欲しいです。
- ・子育てに集中できず、いっぱいいっぱい頑張っているけど、働き損だなと思います。
- ・収入の確保、出費の削減
- ・子育て世代へのアピールはしているようだが果たしてどれだけ伝わっているのか理解できない。子育てをしていない人にもそういう情報が入るとは到底思えない。対策も的をいてないものも多いように感じる。もっと直接的な金銭の動きがあった方がアピールも届くのでは？（現金給付や税金の免除等）
- ・子供が出来た方が、デメリットが多いと気づいて結婚すらしない人が増えて少子化の原因となっていると思うので、結婚したらもっと多くのメリットを市から初めて行くべき
- ・子供ができて情報収集をして初めて知るサービス、支援が多い。良い取り組みはもっと広く積極的にアナウンスしたほうが子供を作ることに消極的な人の後押しになると思う。
- ・より良い収入が期待できれば何もしなくても自然的に人は来るし子供も増える
- ・部分的な対策だけではその場しのぎなので　まず大人達がゆとりあるサポートしなくても生活できる仕組みが大事
- ・少子化対策はすでに困っている人だけに目が行きがちだが今はまだ困っていない人達にも目を向けて少子化予備軍にもサポートしていくと良いのではないか？
- ・様々な政策が行われている事を知る機会を増やすためにテレビやラジオ CMを増やすとか、学校で子供達に紹介する事もあって良いのではと思います。

問6と同様、「経済的不安の解消」と「結婚・出産・子育ての総合的な支援」が、少子化対策の課題として浮かび上がりました。また、情報発信の不足が多く指摘され、多くの人に伝わる継続した広報が必要とされていることに加え、若者が定着する環境作りも重要視されており、単なる子育て支援に留まらない包括的な支援が求められていることがわかりました。